

10 番	小澤 勝 議員	
項目	令和8年度 予算大綱について	項目
<p>(要旨)</p> <p>1. 経済動向について</p> <p>(1) 衆議院議員選挙が終了し積極財政を掲げた結果が政局に大きな変化をもたらした。これを受け本市にとっての経済動向をどの様に見据え、市長としてどの様に行政運営に取り入れていかれるか見解を伺う。</p> <p>(2) 最近の日本国をとりまく環境は大きく変化をしている。例えば関税措置等を含む多様な課題に対して、この経済動向がどの様な影響を与え、また、これをどの様に本市として対応して行かれるのか伺う。</p> <p>2. 第6次瀬戸市総合計画について</p> <p>(1) 市長在任3年が経過し、また第6次瀬戸市総合計画の最終年度を迎え10年に渡って展開してきた諸施策、そして掲げられた都市像の達成度についてその進捗具合はどの様か、また、次期将来計画の策定に向けてその成果と課題を伺う。</p>	<p>(要旨)</p> <p>3. 国の2026年度(令和8年度)予算について</p> <p>(1) 次期将来計画を策定するにあたり、国の予算ともいえる2026年度(令和8年度)予算がどの様に影響を与えるのか伺う。</p> <p>(2) 市長が描く本市のまちの在るべき姿、実現するための具体的な次期将来計画は、いつ公開されるか伺う。</p> <p>4. 中日ドラゴンズの2軍本拠地の誘致について</p> <p>(1) 本市は名古屋市近郊の市として大きなPR効果があるため、中日ドラゴンズの2軍本拠地誘致は市長のトップセールスを含めて積極的に進めて頂きたい。市長は本市の今後のまちづくりにどのような効果を望み、将来展望に活かしていくか伺う。</p> <p>5. 市制100周年事業について</p> <p>(1) 市長が求める“夢”とはどういうものか、「夢の募集と実現」を、まちづくりにどう活かしていくのか伺う。</p>	

10 番	小澤 勝 議員			
項目	令和8年度 予算大綱について		項目	
<p>(要旨) 都市像1. 活力ある地域経済と豊かな暮らしを実感できるまち</p> <p>(1) 地域産業の振興と人材の活躍促進</p> <p>①企業誘致を推進するとあるが、本市は企業誘致に対する種地を含めた立地戦略をどう捉えているか伺う。また、これまでに市長あるいは市はどのような活動をしてきたのか、成否にかかわらず実績を伺う。</p> <p>②STATION Ai において、ネットワーク構築や情報収集を加速していくとあるが、名刺交換レベルやイベント参加レベルになりがちとなる。解決策として、案件を数ではなく成果で測るべき(例えば、PoC)と考えるが、見解を伺う。</p> <p>(2) 年齢や性別にかかわらず、働くことや起業・創業に挑戦できるまちづくり</p> <p>① これまでの「せと・しごと塾」でどれくらい起業に成功し、定住化に寄与したのか、併せて、こうした起業支援施策が、既存の市内事業者や中小零細事業者に対して、どのような波及効果をもたらしているのか伺う。</p> <p>② 若手クリエイター等の支援や販路開拓、知名度向上を掲げているが、具体的にどのような分野・層のツクリテを対象とし、どのような成果をもって支援の効果を判断しているのか、また展示や交流の場の提供にとどまらず、実際の売上や事業の自立につなが</p>			<p>(要旨)</p> <p>っているのか認識を伺う。</p> <p>③令和8年度において、将棋振興の考えについてどう捉えているのか伺う。</p> <p>(3) 地域経済の活性化につながる地域資源を活かしたシティプロモーションの展開</p> <p>①観光誘客や関係人口の創出、移住・定住の促進を目指すとしているが、観光施策がどのようなプロセスを経て関係人口や移住・定住につながるのか、その因果関係について具体的な説明を求める。また、これまでに観光施策をきっかけとして移住・定住に至った事例を伺う。</p> <p>(4) 誰もがいきいきと、安心して働くことができるまちづくり</p> <p>①現在休園中の保育園を今後どのようにまちづくりに活かし、保育行政全般の見直しに活かし、その地区の活性化につなげていくか伺う。</p>	

10 番	小澤 勝 議員		
項目	令和8年度 予算大綱について		項目
<p>(要旨)</p> <p>(5) 市民生活の利便性を高め、企業活動の活性化につながる都市基盤の整備</p> <p>① 本市が重要な基幹道路と位置付けている陣屋線の第2期工事が進捗し、十三橋線との接続も間近となっているが、陣屋線の計画そのものはこれで終了ではない。暁企業団地への延伸についてはどのように計画をし、交通安全面の観点も踏まえて周辺道路の整備をどの様に進めていくか伺う。</p> <p>② 国道248号線のバイパス機能である瀬戸環状東部線の北進をすすめ赤津・品野両インターの機能強化と本市東部地区の物流強化を進捗させる幹線道路整備の計画を伺う。</p> <p>③ 「市民生活の利便性向上と企業活動活性化につながる都市基盤整備」を進めるとのことだが、国道155号線の都市計画道路見直し方針に基づく道路・歩道整備の進捗と今後の方針を伺う。あわせて、北は記念橋まで、南は豊田市ゴルフ場跡地開発を見据え、居住・通勤需要増加に対応するため、豊田市と連携し八草方面まで積極的に整備すべきと考えるが、広域的整備方針について見解を伺う。</p>		<p>(要旨) 都市像2. 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまち</p> <p>(1) ライフステージに応じた切れ目のない子ども・子育ての支援</p> <p>① こども誰でも通園制度は保護者の孤立防止の役割がある。預かりサービスではなく、そこからこども若者家庭センターの支援につながるような『早期発見の仕組み』を具体的にどう組み込むのか伺う。</p> <p>(2) 瀬戸で学び、瀬戸で育ててよかったと思える教育の実現</p> <p>① 予算大綱説明では、主に菱野団地光陵学園においての説明がされたが、他の学区に対してのビジョンの言及はなかった。他の校区については、どのような予算をつけ本市が描く教育の実現に向け、どのように進めていくのか伺う。</p> <p>② 部活動の地域移行やウエルビーイングのための多様な教育ニーズに対応した細やかな教育の推進とは具体的にどのようなものを考えているのか伺う。</p> <p>③ 新給食センター基本計画を策定することのことだが、実施までには時間を要することが予想される。その間も現場の労働環境は続くが、施設更新を待たず、安全性や作業効率、暑熱対策などの改善を段階的に進める必要があると考えるが具体的方針を伺う。</p>	

10 番	小澤 勝 議員	
項目	令和8年度 予算大綱について	項目
<p>(要旨)</p> <p>④新たな学校給食センターの基本計画策定は、老朽化対策のみではなく、次世代を担う子どもたちの『食』を支える重要拠点である。集約化が進む中で単独調理校が持つ喫食までの時間や栄養士の配置メリットをどのように維持させるのか伺う。</p> <p>(3) 多世代が子育てに関わることのできるまちづくり</p> <p>①コミュニティスクールのあるべき姿をどの様に捉えているか伺う</p> <p>②学校と地域が当事者として地域一体として育てていくとあるが、具体的に学校の役割、地域の役割をどの様に担うのか伺う。</p> <p>③学力向上については、どの様な方針で進めるのか見解を伺う。</p> <p>(4) 都市基盤整備による居住環境の魅力向上と未来に向けた良好な環境の促進</p> <p>①防災・減災の要である消防庁舎整備事業は予算計上措置の扱いが無い。本市の防災拠点に対する考え方や、具体的な取り組みの進捗が見えないが、今後の取組や具体的な方向性を伺う。</p>		<p>(要旨)</p> <p>②瀬戸市駅前整備と新たな都市像の構築について</p> <p>市長は次期将来計画で「持続可能なまちづくり」「都市機能の再配置」「歳入強化」「官民連携」などを掲げ、『稼ぐ』視点を示された。人口減少対策には子ども・子育て世代への戦略的投資が不可欠である。今年度より都市計画等策定において駅前広場の活用に着手し、次年度は瀬戸市駅前広場都市計画変更図書作成業務が進められるが、子育て関連施設や図書機能を集約した複合施設を核に、居住区整備と一体化させることで、居住環境向上と将来への環境継承を同時に実現する象徴的計画を策定すべきと考える。人口減少と地域経済停滞を同時に克服し、人が集い商業も稼げる都市像を描く考えについて見解を伺う。</p>

10 番	小澤 勝 議員		
項目	令和8年度 予算大綱について		項目
<p>(要旨) 都市像3. 地域に住まう市民が自立し支え合い、笑顔あふれるまち</p> <p>(1) 誰もがいきいきと、健康に暮らすことができるまちづくり</p> <p>① 居宅介護支援事業所や地域包括支援センターは、対応する専門職員の不足や、他市町への流出は地域福祉事業の崩壊を招く危険性があるため、処遇改善に向けた予算措置を図るべきと考えるが見解を伺う。</p> <p>② 具体的な事業として、公立陶生病院との連携と説明があったが、連携にいたる経緯と理由、また具体的にどのような内容の連携かわせて伺う。</p> <p>(2) 誰もが自立し、地域で支え合いながら生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり</p> <p>① 全世代型地域包括ケアシステムを見据えた重層的な支援体制の構築に取り組むとあるが、我が自民新政クラブが提出した要望書において切れ目の無い支援を目指した地域共生社会づくりを進め、連携がとれた組織を確立するために重層的支援体制整備事業を活用した予算処置を要望した。重層的支援の3つの柱として1. 包括的相談支援 (どんな相談でもまず受け止める「断らない相談窓口」)、2. 参加支援 (社会参加・就労・居場所づくりなどを支援)、3. 地域づくり (住民同士が支え合える地域づくり) があげられるが具体的な取り組みを伺う。</p>		<p>(要旨)</p> <p>② 令和8年度は任期最終年の公約実現に向けた集大成と市長は位置付けてみえるが、やすらぎ障がい者相談支援センターと障がい者相談支援センターの連携により地域に根ざした障害者支援を充実するとあるが、これまでの実績と今後の具体的な取組について伺う。</p> <p>(3) 地域の生活環境の向上と安全・安心な地域づくり</p> <p>① ごみ分別・減量は進展しているが、プラスチック製容器包装の週1回の回収を求める陳情が採択され、回収拡充には財源が必要である。本市は財政調整基金14億円取り崩し、市債17億円借入など厳しい財政状況にある。今後、ごみ処理費増大や施設整備も見込まれる中、ごみ袋有料化手数料値上げの凍結の継続は財政規律上適切か疑問である。「歳入強化」という視点を掲げるのであれば、ごみ減量と連動した受益者負担の再整理と制度見直しを検討すべき時期であると考えられ、財政健全化と将来施設整備を見据えた政策展開について見解を伺う。</p>	

10 番	小澤 勝 議員	
項目	令和8年度 予算大綱について	項目
<p>(4) 誰もが生涯にわたって学び、郷土に対する誇りと愛着を深める豊かな地域づくり</p> <p>①図書館本館は、人の流れを生み出す『まちの拠点』としての役割を担うべき重要な施設である。リニューアルを単に本を読む場の設備更新に留めることなく、多世代の市民が集い、長時間心地よく過ごせる『滞在型図書館』としての機能を高めることが重要である。</p> <p>そこで「まちの拠点」としての活気ある空間づくりをどのように進めるのか伺う。</p> <p>②文化財等の収蔵施設は単なる保管庫ではなく、見学可能な公開エリアや陶芸体験ができる「保存」から「活用」の観点が必要だと考える。旧東明小学校という立地を活かし、せともの文化や観光とどのように連動させていく考えか伺う。</p> <p>③市長は「学校再編による魅力ある学校がまちづくりの核となり、地域全体の活性化につなげる」と述べられた。しかし、都市像3の重点事業である菱野団地再生計画推進の予算は減額のままであり、住民バス減便に続き、計画終了まで約2年を残す中で地域活動団体は資金難の状況であると聞いている。みつば小学校が開校し、これからという状況で、地域とともに活動する場所を維持するためにも、運営費の補助を行うことが、重要と考えるが見解を伺う。</p>	<p>6. 令和7年度の地域懇談会で出された『多くの意見』のうち、今回の施策に最も反映した点はどこか伺う。</p> <p>7. 予算大綱において、都市像①政策4「誰もがいきいきと、安心してはたらくことができるまちづくり」および都市像②政策4「子育て世代に向けた魅力あふれる子育て情報の発信と定住の促進」について取り上げなかった理由を伺う。</p> <p>8. 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金</p> <p>(1) 中学校の学校給食費を3年生のみ無償で、1、2年生は物価高騰分のみ減免する方針であるとのことだが、子育て支援として不平等性が強いと指摘する声もある。このような施策とする理由を伺う。</p> <p>9. 上下水道企業会計について</p> <p>(1) 水道の料金体系を29年ぶりに改定したが、今後、安全を基調とした水道事業を進めるには、老朽管の更新率の向上を目指した管路更新が重要であり、その対策と取組を伺う。</p>	

10 番	小澤 勝 議員		
項目	令和8年度 予算大綱について		項目
<p>10. 公立陶生病院の運営について</p> <p>(1) 公立陶生病院は、救急医療、周産期医療など不採算分野を抱え、加えて昨今の物価、人件費上昇により極めて厳しい経営状況となっている。これに対し一部事務組合を形成する本市は尾張旭市、長久手市とともに歩調をあわせて効率的、効果的な支援をする必要があると考えるが、両市にどのように働きかけ、健全経営の確立に寄与しようとしているのか伺う。</p> <p>11. 市長公約について</p> <p>(1) 市長在任の最終年度を迎えるに当たり、市長のマニフェストをこの3年間で何を果し、最終年度のこの1年でどのように取り組み果たしていくつもりか伺う。</p>			